

【出題意図】

総合型選抜の小論文は、「大学の講義のミニ体験」だと考えて下さい。

動画(講義の代用)を視聴し、「内容を理解できていること」、「理解した内容を自分の経験や身の回りのことと結びつけて考えられること」、これらが評価対象となります。

◆みているポイント◆

・問 1 は「理解力」：動画の内容を正しく整理し、記述できるか

問 1 には“正解”があります。動画の内容を正確に理解し、短くまとめ、伝えることがポイントです。動画の中の重要な部分を 200 字で正しくまとめてください。

・問 2 は「考える力」：動画をきっかけに、自分の体験や社会の出来事とつなげ、深く考えられるか

問 2 には“正解”がありません。動画の内容を出発点にし、自分の体験や社会の出来事と結びつけながら、自分なりの考えを深めてください。どんな視点で書くかは自由ですが、動画の内容を土台にして、自分の発想を順序立てて書くことが大切です。

◆書くときの注意点◆

1. 動画内容と関係のある話を書きましょう！：動画と関係の薄い話は、ただの「自分語り」になってしまいます。

2. 自分の体験を書いたら、必ず動画の話に戻りましょう！：体験を熱く語りすぎて、動画内容との関連が尻切れトンボにならないようにしましょう。

以上のことから、問 1 と問 2 では、求められている文章が異なります。問 1 は「正しくまとめる」こと、問 2 は「広げて考える」こと、これらの違いを意識して、上手に書き分けてください。

出題年度：2024 年度

【模範解答】

< I >

問 1

- ① 心理学では、プレッシャーとは、課題遂行者自身の遂行成績の重要性を高める要因であると定義される。人は、強いプレッシャーを感じると、失敗したらどうしよう、等といったネガティブな考えが頭の中に浮かぶ。ベイロックらは、そうしたネガティブな考えが、頭（脳）の中の何らかの働きを阻害した結果、作業の失敗や成績低下が生じる、というメカニズムを明らかにした。（172字）
- ② プレッシャーなし群では、1 回目よりも 2 回目の方がWM課題の成績が高く、プレッシャーあり群では、1 回目よりも 2 回目の方がWM課題の成績が低かった。したがって、プレッシャーがない場合は、1 回目と 2 回目でWMの能力に差が生じない。むしろ練習効果でより良い成績となった。いっぽう、プレッシャーがかかると 2 回目であっても、プレッシャーがない 1 回目に比べてWMの能力が低下することが明らかになった。（193 字）
- ③ 情報を保持しながら処理するWMの能力は、学業においても重要である。しかし、強いプレッシャーを感じると、作業の途中でネガティブ思考が割り込んできて、情報を保持したり処理したりしにくくなる。学業場面においてプレッシャーが大きいと成績が低下しやすいのは、プレッシャーによって生じるネガティブ思考が、学業に重要なWMの能力である情報処理過程を邪魔するためである。（177 字）

問 2

【採点ポイント】 ※出題意図にて記載の通り、“正解”はありません。

- ・「動画の内容と自らの経験」の部分で、プレッシャーのメカニズムについて理解していると分かる。
 - ・動画の内容として、ネガティブ思考やワーキングメモリ(WM)についての言及がある。
 - ・「効果的な対策や準備」として、ネガティブ思考に陥った・陥りそうなときに、それを回避する工夫が具体的に書いてある。
 - ・もしくはネガティブ思考そのものを回避する方法を提案している。
- 上記のうち2点以上書いてある場合には加点対象になります。